

感動をありがとう!



只見高校野球部!!

**雨天順延などで
開始日時が繰り下げに**

只見高校野球部の試合は、当初21日の試合予定から、雨天による順延や第2試合の延長などで開始時間が予定よりも遅れ、3月22日18時26分に始まりました。この試合は、今センバツ大会初のナイターゲームとなったことや試合時間が確認できる第50回大会以降で最も遅い開始時間となりました。

**一塁側アルプス席、
パブリックビューイ
ング会場が只見色に**

町内の季の郷湯らりに設けられたパブリックビューイング会場には約140人の町民の方々が駆け付けました。甲子園球場1塁側アルプス席には約400人の町民の方々をはじめ、友情応援で駆け付けた東灘高校と神戸鈴蘭台高校の吹奏楽部の皆さんや保護者の方な

どを含め、約1000人が集まりました。応援者は、応援グッズとして準備した帽子やジャンパーを着用し、各会場は只見の自然を表す緑色に染まりました。

**落ち着いた守備を
見せた只見ナイン**

只見高校が後攻で始まった試合は、先発を酒井悠来さんが務め、1回表の先頭打者をセンターフライに打ち取りました。2番打者は内野安打で出塁させましたが、次の3番打者とダブルプレーに仕留めました。4回表には1塁ランナーの盗塁を阻止し、7回にも一塁ランナーを牽制でアウトにするなど冷静な守備を見せてくれました。

攻撃では4回裏、酒井怜斗さんが出塁すると、鈴木詠大さんの送りバントや相手のエラーなどでツーアウトランナー1塁、3塁のチャンスとなります。このチャンスで

打席に立った山内友斗さんが、ライトへのタイムリーヒットで1点へと繋ぎました。

この瞬間、アルプス席とパブリックビューイング会場が最高潮に達し、メガホンが打ち鳴らされたり、大きな拍手が上がったり、感動に涙を流す方も見られました。

只見高校の甲子園初得点となったこの1点は、会津地区から甲子園に出場した高校では初の得点としても大きな足跡を残しました。

**大きな感動と
勇気をありがとう**

残念ながら、1対6と試合には敗れてしまいましたが、最後まで笑顔で「全力疾走」した只見高校野球部の姿は、只見町のような過疎化や少子化が進む地域だけでなく、福島県や全国各地の皆さんに大きな勇気と感動を与えてくれました。



1



2



3



4



5



6



7

1 笑顔で戦い抜いた只見ナイン(写真提供：福島民報社) 2 長谷川監督の話を聞く只見ナイン(写真提供：福島民報社) 3 只見色に染まる1塁側アルプス席(写真提供：福島民報社) 4 パブリックビューイング会場で応援する町民の皆さん 5 応援幕の仕上がりを確認する目黒邦友さん 6 町内事業所などに掲示された応援幕 7 馬場ミツさんのご自宅に掲示された手作りの応援幕

只見高校のセンバツ出場が決定してから試合日まで、只見高校を応援する幕が、町内各地に掲示され、町民の皆さんが一体となって只見高校の応援をしました。

24日に、選手が甲子園から戻ってくると「お帰りなさい！感動をありがとう！」の幕とともに保護者や町民の方でお迎えをし、選手たちへの感謝と選手たちからの感謝をそれぞれ伝え合いました。

